JR東労組 本部ＯＢ会 ニュース

東日本旅客鉄道労働組合
東京都渋谷区代々木２丁目２番６号
ＪＲ新宿ビル13Ｆ〒151-8512
Tel. 03－3375-5740（代）
発行責任者　古 川 建 三

№ 219　2015 年　9 月発行

バス東北に念願のＯＢ連絡会が結成さる！

猛暑も峠を越した8月24日、13時より盛岡地本の会議室で「ＪＲ東労組バス東北本部ＯＢ連絡会結成総会」が開催されました。この結成総会には、中央本部を始め本部ＯＢ会やバス東北、バス関東の役員も参加して開催されました。バス東北の退職者の20名がＯＢ連絡会への入会を表明しており、その内10名の方が結成総会に参加しました。

春の交流で結成の気運が

この日結成総会を向かえたのは、5月13日に開催された「ＪＲバス関東とバス東北ＯＢの代表者会議」で「よし、東北にもＯＢ会の組織をつくろう」との声が上がり、結成の気運が高まったからでした。その後、バス東北を中心にして結成に向けた準備が進められ、わずか3ヶ月後に「ＪＲバス東北本部ＯＢ連絡会」の結成という大輪の花を咲かせました。

多数の来賓も駆けつける

結成総会には、中央本部から森ＯＢ担当中執を始め、本部ＯＢ会から古川会長、佐々木副会長、伊藤事務局長、そしてバス東北の佐藤議長と勝山事務長、バス関東の小泉副議長がお祝いに駆けつけました。

結成総会では、当面の取り組みと規約規則の提案が行われた後、討論がおこなわれました。

意見としては

・「退職者にこうして会える機会が出来て、大変良かった」

・「もっと大勢の人にも声を掛けて、ＯＢ会員を増やそう」

・「たしろ選挙は、現役と共にしっかり応援をする」

など、久しぶりに会った参加者から「バス東北本部ＯＢ連絡会」の結成を喜ぶ声や、期待などのいろいろな意見が出されました。

総会後は、場所を駅前の居酒屋に移して懇親を深めました。

盛岡地本で開催されたバス東北のＯＢ連絡会結成総会

【バス東北本部ＯＢ連絡会三役】

会　長　竹澤　長一（バス仙台）
副会長　長尾　初（バス青森）
副会長　村上　徳男（バス福島）
副会長　穐元　徳久（バス青森）
事務長　齊藤　光司（バス福島）
事務次長
小原　明彦（バス本部）

よろしくお願いします

バス東北本部ＯＢ連絡会の三役の外に、各分会ＯＢ会の代表も選出されています。なお、各分会のＯＢ担当者は分会書記長です。

第８回ブロック別地本ＯＢ会三役会議

～各地で組織問題の解決に向け意思統一が出来る～

本部OB会は、今年も恒例になった「第8回ブロック別地本OB会三役会議」を、8月20日から27日にかけて東日本の4ヶ所で開催しました。

会議は、8月20日に東関東ブロック（水戸、千葉、東京）、21日に西関東ブロック（横浜、八王子、大宮）が東労組本部の小会議室で、25日には上信越ブロック（高崎、新潟、長野）が高崎地本会議室で、27日には東北ブロック（盛岡、秋田、仙台）が盛岡地本会議室で、それぞれの地本OB会の三役が参加して開催されました。

今年の会議では、OB会の中から発生した「組織問題」と、来年に迫った参院選、そしてこの秋に取り組む「沖縄と連帯する旅」等が集中的に議論されました。

組織問題では、今年の本部大会で東京地本OB会所属の浅野　孝が昨年7月2日に行った講演会で、「JR東労組は御用組合」と話し、組合員を組織化している行為は「JR東労組への組織破壊」と決定された事に踏まえて、その講演内容の問題点と一部地方で発生している「混乱」について討論を行いました。討論では当該ブロックを始め全ての会場で、「浅野講演は絶対に許さない」という弾劾の声で渦巻きました。

また、本部OB会が「戦後70年」の秋に、初めて取り組む「沖縄と連帯する旅」を成功させる事も確認されました。

「たしろかおる」の国会活動を支援する取り組みでは、OB会も「紹介者カード」の拡大に向けて、更に全力を上げて行く事も確認されました。

年に一度、本部OB会三役と各地本OB会の三役が親しく膝を交えて話し合う「ブロック別地本OB会三役会議」は、JR東労組OB会の団結を強め、役員間の親睦を深め合う重要な場になっています。

「沖縄と連帯する旅」参加者募集

✧　日　時　2015 年 11 月 30 日　羽田発 JAL907 便
　　12 月　2 日　羽田着 JAL910 便

✧　募集人数　80名

✧　募集期間　2015 年 9 月 1 日～10 月 31 日
　　（満員になり次第締め切ります）

✧　参加費用　一人6万円

※　参加希望者は、
　　各地本ＯＢ会まで

退職者連合も「8・23大行動」で国会包囲

連合も参加する「みんなで安倍政権にNO！国民の声、怒りの8・23大行動」実行委員会が、8月23日国会包囲行動を実施しました。この日の行動は、“闘争宣言”“労働法制改悪反対”“安保法案反対”の三部構成で行われました。

まだ夏の日差しが照りつける中、国会を包囲する連合組合員14000名の怒りの声が、安倍政権と国会に向けぶつけられました。

新しいのぼり旗を掲げた退職者連合も500名が結集し（JR総連OB連絡会からは18名が参加）、共に怒りの声をあげてきました。

決意を語る阿部会長

集会では、退職者連合の阿部会長が「私たちは戦争の悲惨さと平和の有り難さを体験した世代だ。安保法案に断固として反対する。連合と共に国民世論づくりの行動を更に強め、この法案を廃案に追い込んでいく」と固い決意を表明しました。

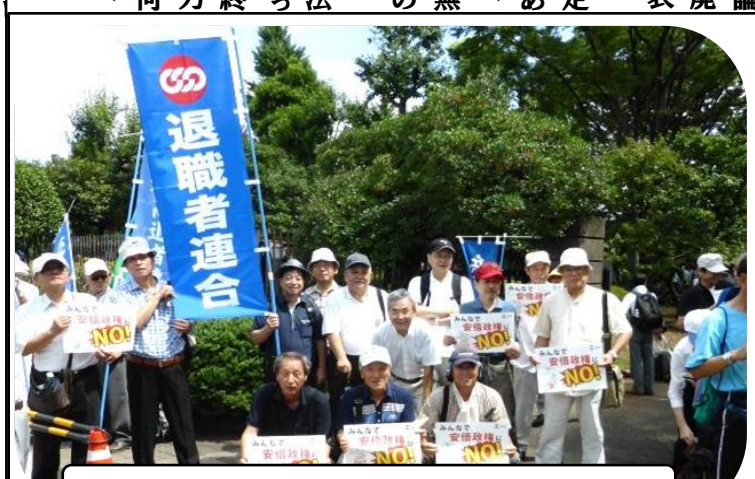
いま、安倍政権の民主主義も否定し、圧倒的多くの憲法学者が「違憲である」と断定しているのにもかかわらず、「法律は我々が決める」などと一切を無視したこの強権的な国会運営に、国民の怒りは頂点に達しています。

文字通り老若男女が、この「戦争法案」を廃案に追い込むために立ち上がっています。国会内でデタラメな答弁に終始しているこの法案を廃案にさせる力は、国民の総力を上げた取り組み如何によります。全国のあらゆる地域から、法案反対の声を上げていきましょう。

本部OB会もJR東労組の現役の仲間や退職者連合の仲間と共に、この「戦争法案」の廃案をめざしてこれからも闘っていきます。

この日の闘いのうねりは、8・23に続き8・30の国会を取り巻く10数万の市民の大行動に引き継がれました。

最後まで諦めないたたかいを！



8･23大行動に参加したJR総連OB連絡会の仲間

わが町の有名人

千葉地本OB会

相川さんの住む南房総市和田町は、自然豊かな町で和田浦には「花嫁街道」という15・5km、約5時間で歩けるハイキングコースがあります。現在JR東日本が各地で行っている「駅からハイキング」の第1号になったところです。

相川さんは車掌をしていた鴨川運輸区を退職した後は、現在市から委託されて和田浦駅で働きながら、この花嫁街道のガイドをボランティアでやっています。相川さんとこの花嫁街道との付き合いは、今から35年前にさかのぼり、当時荒れ放題だった花嫁街道を、地元の仲間達と間伐材や風倒木等を使って歩きやすい様に整備したことから始まっています。

半生を「花嫁街道」に

ガイドをやっていて嬉しい事は、このコースを歩いた人から「よく整備されているね」「今度は家族で来るよ」と声を掛けられた時だそうです。

またこの街道を整備した時の経験が、その後『森びとプロジェクト』の足尾での階段づくりに生かされたのも、嬉しい思い出に残っているとのこと。

これからも「自然と共に人生を」と語ってくれました。

そんな相川さんを家族みんなが応援しています。

（南房総市在住・相川　好夫・69歳）

OB会が主導し、各地でレクが開催されました

千葉地本・成田支部ＯＢ会

地引網～みんなで引っ張って大漁だ

昨年結成したばかりの成田支部OB会が、7月30日成東・本須賀海岸にOB会員や組合員、家族など120名を集め、「団結・地引網＆バーベキュー」を盛大に開催しました。

当日は霧が立ちこめる中、9時過ぎに網を載せた漁船が出港し、1時間かけて全参加者が「ヨイショ・たしろ勝利」と声を掛け合い、初めての地引網を経験しました。しかし、最初は網を引き寄せても魚の姿は見えませんでしたが、さらに網を引き、汗をかき、苦労した後に大漁の魚を見つけるや、子供達から大歓声がわき起こりました。クロダイをはじめアジ、イワシ、ワカシなどが大漁に引き上げられました。

その後海の家・つま丸に戻り、斎藤会長の挨拶の後、畠山秘書からたしろ参議院議員のメッセージが紹介されました。その後地本・本部OB会からあいさつを受けた後、鳥井支部委員長の乾杯の音頭で大交流会がはじまりました。実行委員の手料理や、採れたての魚のバーベキューや冷えたスイカで大盛況でした。

支部OB会は、参加者の笑顔を忘れず、安心して暮らせる世の中を作るために、たしろ参議員を再び国会に送り出すことを誓いました。

（千葉・成田支部OB会）

仙台地本・米沢地区ＯＢ会

福島の被災者に寄り添う夏祭り

米沢地区OB会主催の第4回原発避難者支援夏祭りが、7月22日80名の参加者で開催されました。当日は本部OB会の古川会長、地本OB会の林事務局長を始め、福島支部OB会から4名、地本青年部10名、地元のOB会員11名も参加し、流しそうめん、綿飴、ポップコーンや缶バッジ作りに、ボランテアとして協力して頂きました。

そんな中、福島に帰還されていた4家族13名の方々が、「米沢で知り合った友人や知人に会いたい」と参加され、「何かの機会がないと来られないので、夏祭りをやって頂いて大変有り難い」と喜んで頂きました。「次回は夏休みにして欲しい」との要望も出されました。

終了後、場所を移して青年部と福島支部OB会を含めた26名で交流会を兼て反省会を開催しました。青年部員から「避難者の皆さんから何度も有り難うと言われ感激した。また参加したい」との発言があり、米沢地区OB会として手応えを感じました。

私達は今後も避難者支援活動を継続し、脱原発に取り組みます。

（仙台・米沢地区OB会）